

NUMAZU SHINKIN BANK

REPORT

沼津信用金庫レポート2024



発行 2024年7月
編集 沼津信用金庫 経営企画部
〒410-8610
静岡県沼津市大手町五丁目6番16号
TEL.055-962-5200
<https://www.numashin.co.jp/>

沼津信用金庫ディスクロージャー誌の表紙は、2005年版より沼津市出身の立体アーティスト田村映二氏の作品シリーズで発行しています。



ある夏の日
獅子浜にて
Jam Jam.

ごあいさつ



会長 紅野 正裕



理事長 鈴木 俊一

皆さま方には、平素より沼津信用金庫をお引き立ていただきまして、心より感謝を申し上げます。

本年も当金庫に対するご理解を一層深めていただくため、ディスクロージャー誌「沼津信用金庫レポート2024」を作成いたしました。本誌は当金庫の経営方針や業務内容、最近の業績、健全性などについてまとめたものです。ご高覧のうえ、当金庫の経営内容につきまして、より一層のご理解を賜れば幸いです。

2023年度は、今後の金融機関を取り巻く環境が大きく変わることになる転換の年でありました。まずは2023年5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を経て外国人観光客が目立って多くなったことです。当金庫の営業エリアにおいてもインバウンド需要が期待できるようになりました。また、2024年3月には日本銀行が「マイナス金利政策」を解除して、実に17年ぶりの利上げによる金融政策の正常化に向けた動きが進み始めました。

一方で、長引く地域紛争に端を発する地政学リスクに加えて歴史的な円安によりわが国の輸入物価は高水準で推移しております。このような状況下、当金庫では営業エリアにおける事業所を中心とした取引先の皆さまを応援しつつ、景気の下支えができるよう引き続き注視してまいります。

当金庫において2024年度は、中期経営計画「Flexibility」の2年目です。行動指針である「お客さま時間の拡充」を深化させ、さらに「チャレンジ&ビュー」の実践が求められる大切な1年となります。「お客さま時間の拡充」の深化とは、「お客さまと対話する機会と時間」を増やし、「お客さまに合わせた適切な商品やサービス」を提供し、「お客さまと職員がともに感動するレベルの共有」を分かち合うことを目指すものです。一方の「チャレンジ&ビュー」とは、職員自身が現状を打破し、新たな組織へと変革していくために、従来の前提・枠組み・制約条件を超えた考え方に基づいて高い目標に挑むことを後押しするものです。そして、そこで得た体験を基に更なるチャレンジへと進むものです。

例えば、2023年5月に移転オープンした北支店では上記方針の実現を目指したカウンターレス店舗に挑戦し、来店されるお客さまとの「距離感」を縮めました。

また本年度は、金融機関による経営改善・事業再生支援フェーズへの転換期であると考えており、取引先の事業者さまに対しては「一歩先を見据えた早め早めの対応の促進」や「お客さまに対するコンサルティング機能の強化」によるオーダーメイド型の提案を意識していく所存です。

これからも役職員一同、お客さまと地域に軸足を置いた経営に努めてまいりますので、更なるご支援とご愛顧をお願い申し上げますとともに、皆さまの益々のご健勝を心からお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。

なお、「沼津信用金庫レポート2024<資料編>」につきましては、当金庫のホームページ上に掲載しておりますので、お手数ではございますがご確認のほど、よろしくお願い申し上げます。

2024年7月

理事長 鈴木 俊一

企 業 理 念

ぬましんは、地域のみなさまとともに地域経済の発展に積極的に取り組んでおります。

…… 私たちの使命 ……

地域のみなさまの夢を育て、
質の高いサービスを提供します。

「ぬましん」は、地域に密着した金融機関として、みなさまに充実したサービスを提供していきます。そして、地域のみなさまの夢をかたちにしてお手伝いをしていきます。

…… 私たちの精神 ……

お客さまとのふれあいを大切にし、
チャレンジ精神で柔軟に対応します。

「ぬましん」は、お客さまとの共感を最も大切にします。そして、お客さまのニーズをしっかりと把握し、積極的に応えていきます。

…… 私たちの姿勢 ……

誇りとロマンを求め、
魅力あふれる企業をつくります。

「ぬましん」の職員は、いつもお客さまに信頼されているというプロフェッショナルの誇りを持っています。そして、仕事にロマンと広がり求め、働きがいのあるより良い企業をつくっていきます。



コーポレートマークのコンセプト

当金庫のコーポレートマークは人が力強く歩く姿をシンボライズしたもので、地域とともに発展していく経営姿勢や人のもつ温かさをフリーハンドで表しています。ぬましんレッドは情熱を、ぬましんブルーは調和をイメージしております。これからも、みなさまから信頼されるパートナーとして私どもを知っていただければ幸いです。

CONTENTS

P.01-03 Introduction

- 01 ごあいさつ
- 02 企業理念
- 03 業績ハイライト

P.05-14 地域社会とともに

- 05 地域経済活性化への取り組み
- 06 お客さま満足度向上に向けた取り組み
- 07 サステナビリティに関する沼津信用金庫の取り組み
- 08 職域サポートサービス「ななつぼし」
- 09 TOPICS
- 11 「お客さま時間の拡充」の深化を目指して
- 12 まちづくりプラットフォーム
ぬましんCOMPASS
- 13 沼津信用金庫相談センター
一般社団法人しんぎん成年後見サポート沼津
- 14 「フェンシングのまち沼津」を応援

P.15-18 金融仲介の取り組み

- 15 金融仲介機能強化に向けた取り組み

P.19-24 経営管理体制

- 19 コンプライアンス(法令遵守)体制
- 20 各種基本方針
- 20 マネー・ローンダリング・テロ資金供与・拡散金融対策等
- 22 リスク管理体制
- 23 顧客保護体制
- 24 業務運営方針

P.25-28 沼津信用金庫について

- 25 役員一覧・沼津信用金庫プロフィール・組織図
- 26 業務のご案内
- 27 総代会制度

P.29 ストリートギャラリー

- 29 ストリートギャラリー

P.31-34 店舗案内

- 31 店舗案内
- 34 店舗マップ

資料編はこちら

「資料編」として当金庫のホームページに掲載しておりますので、閲覧を希望されるお客さまは、下記のウェブサイトからご覧ください。なお、インターネットの操作が分からないお客さままたはインターネットに接続できる電子機器(パソコン、スマートフォン等)をお持ちでないお客さまは、別途ご案内いたしますので、当金庫職員までご相談ください。
https://www.numashin.co.jp/about/files/disco_2024_shiryohen.html

こちらから簡単
アクセス▶



事業方針

当金庫では行動指針である「お客さま時間の拡充」の深化と「チャレンジ&ビュー」の実現のために信用金庫の原点を意識した活動を大切にしております。

お客さまとの「距離感」を大切に、「一歩先を見据えた早め早めの対応の促進」や「お取引先に対するコンサルティング機能の強化」を通じて地域に密着した信用金庫であり続けることを目指してまいります。

業績

預金積金



預金積金残高 **5,663億円**

2023年度の預金積金は、個人取引先・法人取引先ともに要払性預金を中心とした残高が伸びました。期末残高は5,663億56百万円と前期比で0.68%の増加であり、期中平均残高は5,664億93百万円と同0.85%の増加となりました。

貸出金



貸出金残高 **2,319億円**

貸出金については、お客さまのニーズが強い個人ローンや住宅ローンは堅調に推移して前期比で増加しましたが、期中に回収となった地公体向け貸出しの影響などもあり、期末残高は2,319億18百万円と前期比1.46%、期中平均残高は2,307億73百万円と同0.18%の減少となりました。

預かり資産



預かり資産残高 **211億円**

投資信託はラインナップの充実と評価額上昇による残高の増加により前年を上回りましたが、保険・公共債の残高減少により前期比微減となりました。

当期純利益



当期純利益 **18億69百万円**

貸出金利回りの上昇や有価証券利息配当金の増収などにより資金利益が前期比で増益となりました。当期純利益は前期比5億円増益の18億69百万円を計上し、中期経営計画の目標を超える最終利益を確保することができました。

主要な経営指標

店舗の新築移転オープンなどにより経費は前期比で増加しましたが、好調な資金運用収益に支えられ、経常利益は前期比4億94百万円増益の23億40百万円となりました。金融機関における本業の収益性をあらわすコア業務純益についても、同3億47百万円増益の16億97百万円でありました。

項目	第70期 (2019年度)	第71期 (2020年度)	第72期 (2021年度)	第73期 (2022年度)	第74期 (2023年度)
経常収益	8,452,541	8,964,569	9,509,348	9,116,245	9,480,353
経常利益 (千円)	1,512,635	1,768,259	2,222,629	1,846,198	2,340,251
当期純利益	993,021	1,200,937	1,458,914	1,369,701	1,869,860
出資総額 (百万円)	701	701	701	699	696
出資総口数 (千口)	7,014	7,010	7,015	6,995	6,964
純資産額	35,501	42,626	42,515	38,088	41,180
総資産額	570,084	603,942	607,025	605,928	611,869
預金積金残高 (百万円)	528,090	551,895	554,204	562,486	566,356
貸出金残高	221,825	238,352	233,873	235,358	231,918
有価証券残高	263,942	291,314	291,597	287,156	285,159
自己資本比率(単体) (%)	14.79	15.91	15.65	15.77	16.37
出資に対する配当金 (出資1口当り) (年%)	4	4	4	4	4
役員数 (人)	11	13	13	12	11
うち常勤役員数 (人)	8	9	9	8	7
職員数 (人)	413	422	452	455	462
会員数 (人)	25,898	25,805	25,502	25,150	24,869

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

※「自己資本比率(単体)」は、信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当かどうかを判断するために金融庁長官が定める基準に係る算式に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。

自己資本比率の状況

自己資本比率は「リスク資産」に対する「自己資本」の割合を示したもので、お客さまからお預かりしている大切な預金が保護されるための、金融機関の経営体質の健全性を示す重要な指標です。2024年3月期における単体自己資本比率は16.37%と前期比0.60ポイント上昇しました。当期純利益の計上による自己資本の額の増加率がリスク・アセットの増加率を上回ったためであり、国内基準の4%を上回る高い健全性を維持しております。

自己資本の額と単体自己資本比率



自己資本比率 (単体ベース) **16.37%**

◆自己資本比率の算出について

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本の額 (出資金や利益剰余金などの合計額)}}{\text{リスク・アセット等の額の合計額}}$$

※リスク・アセットとは、リスクを有する資産(貸出金や有価証券など)をリスクの大きさに応じて掛け目を乗じ再評価した資産金額のことをいいます。